

どんな灯(あかり)をともしたいのか

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2762号
(2011年5月23日発行)より

夢を見ました。夢のなかで、私は、何かを決意し、覚悟することをせまられているのです。それも、私ひとりではなく、そこにいる、何人ものひとが、同じように、決意と覚悟を、もとめられているようでした。

「自分で決めることが必要です…」
誰が言っているわけでもないのに、そうしなければならないのだと、なぜか、わかっている感じです。

それは、どうしてもやらなくてはならないこと。だからこそ、覚悟しなければはじめられない。…そんなことを思っているのです。

目が覚めたあとも、何度も何度も、自分に言い聴かせている、そんな映像が、頭のなかに残っていました。

そして、ふっと、ことばが降りてきたのです。どんな灯(あかり)をともしたいのか。…と。

ああ、そうなのか…と思いました。覚悟しなければならないこと。それは、特別なことでも何でもなくて、ひとは、誰でも、この世に価値のある存在として生まれてきて、果たすべき役割をもっていること。

その役割を果たすためには、そのことを、自覚し、決意する必要があるということ。何をするかは、すべて、そのひとにゆだねられているということ。そのことが、わかったのです。

どんな灯(あかり)をともしたいのか。
決意し、覚悟することは、そのことだったのです。私たちは、この世に、灯をともしために生まれてきたのです。

それが、どんな灯であるのか、どんなにちいさなものであろうと、どんなに目立たぬものであろうと、灯であることに、変わりはないのです。

みずからが、そのことを自覚し、選ぶことが大切なのです。ひとの灯と、比べる必要はないのです。明るい、暗いと、憂いたり、おとしめたりする必要もないのです。

どの灯を、どのようにともすかは、すべて、そのひとが決めることだからです。そのひとが決めないかぎり、どんな灯も、光を放つことはないのです。

無数の、ちいさな灯がともっているようですが、こころのなかに浮かびました。それは、宮沢賢治の作品「ポラーノの広場」のなかの、シロツメクサの花の、白い灯のようでもありました。

一つひとつはちいさいのに、集まると、野原全体がぼうっと白く明るく光って見えて、ひとびとを、祭りの場へと、案内してくれるのです。

ああ、そんな、花のような灯でありたい。そんなシロツメクサのひとつでありたい。そんなふうにも思いました。

そして、私たちが、そんなふうにも、ちいさな灯をともしあえる存在なのだということを、忘れないでいたい。一人ひとりがもっている尊厳を、どんなときでも、見失うことがないように…。

私は、静かに祈りました。私の内なる灯に向かって。無数に咲いている、すべての灯に向かって。どうぞ、忘れないでください。忘れずに、見つめてください。あなた自身がもっている灯を。

どうぞ、あなたの灯を、高くかかげてください。そして、この世界を照らしてください。かがやかせることができるのは、あなただけです。あなたにしか、できないことです。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、
2003年11月1日創刊。2011年3月、
2700号達成。3秒読める携帯版もあり。
無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>